

5
預言者たち
聖徒伝 139

「恐れるべきは 主のことば」

アモス書1～2章

諸国民とユダとイスラエルの裁き

アウトライン

0. イントロダクション

I. 周辺諸国への裁き 1:1~10

II. 兄弟民族への裁き 1:11~2:3

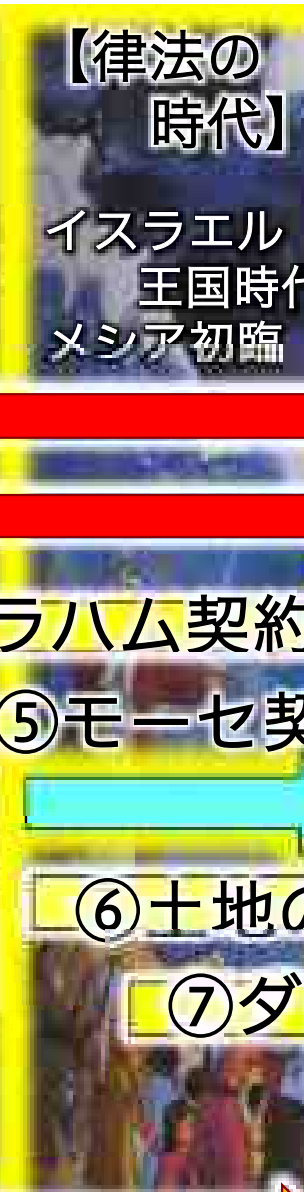
III. ユダとイスラエルへの裁き 2:4~15

IV. まとめと適用

自分自身を聖別しつつ、世を歩もう



ベテル近郊の荒野



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

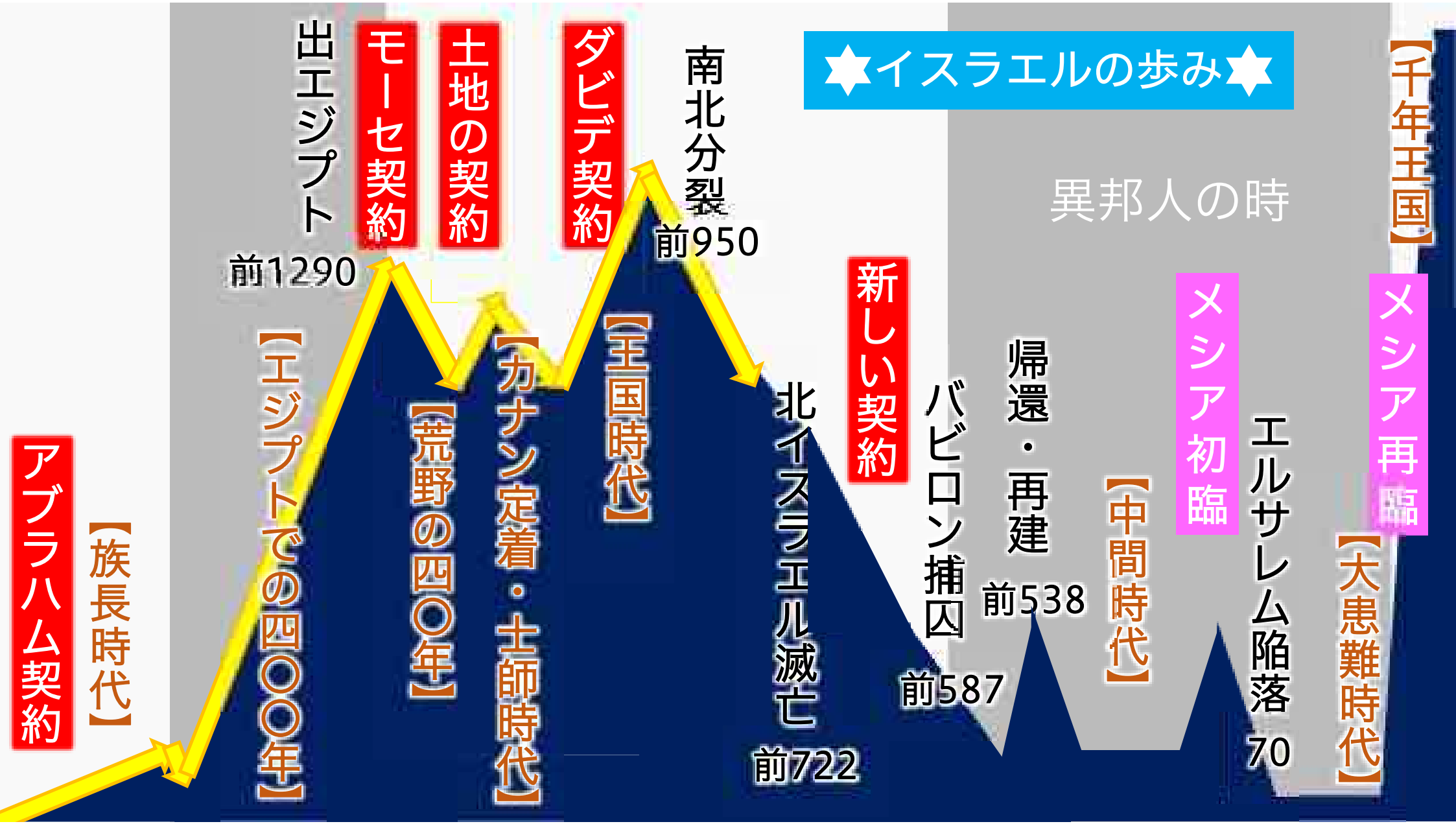
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★

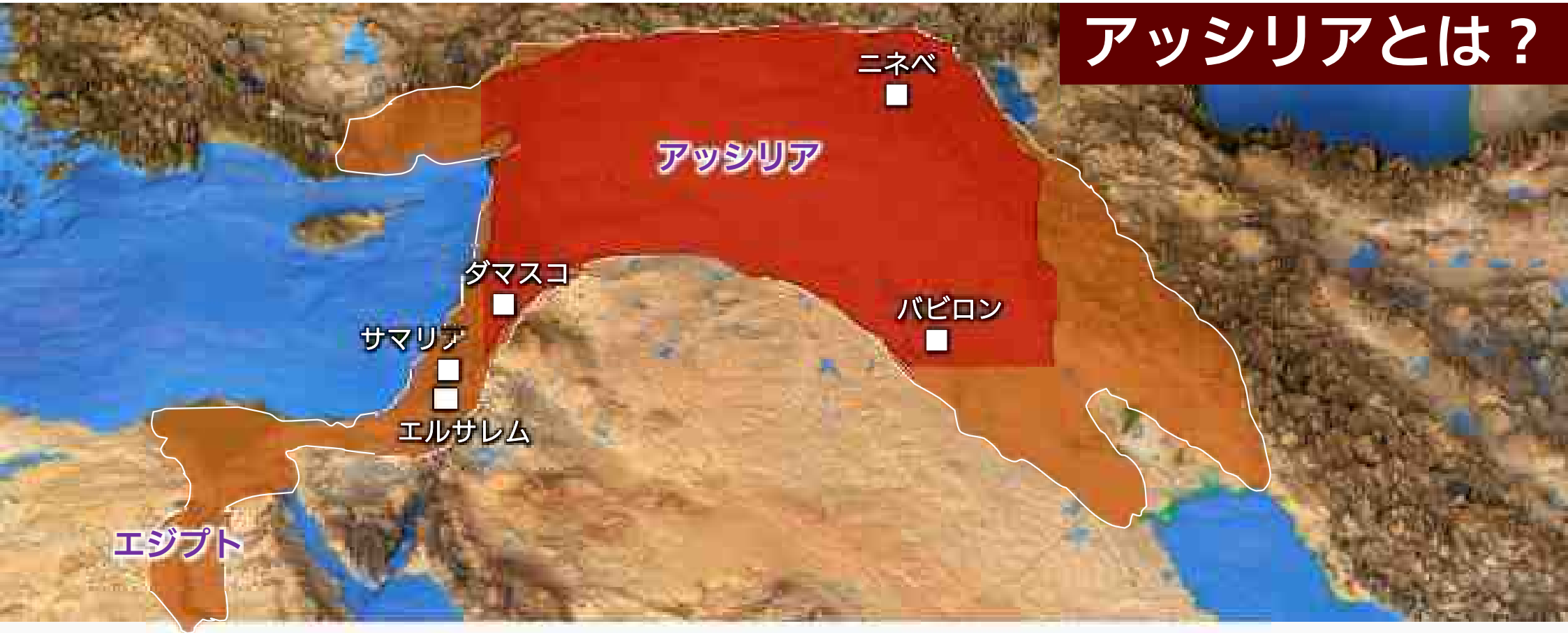


アモス書とは？

- **著者** … **アモス** = “重荷を負う者”
- **出身** … テコア (ベツレヘムの南)
交通の防衛の要衝の町。
- **職業** … 羊飼いや農夫 (自営農)
- **時代** … ヤロブアム2世の時代の北王国。
- **場所** … 金の子牛が立てられたベテル。
- **背景** … **アッシリア**の台頭によるアラムの衰退で
南北共に最盛期を迎えていたが…。



アッシリアとは？



- 古代から存在。BC10～7世紀の**新アッシリア**後期に世界帝国に。
- BC722には、北王国・イスラエルを滅ぼす。(アッシリア捕囚)
→北王国の滅びは、アモスの時代の数十年後!!

アモス書の構成

① 諸国民への裁き (1～2章)

- ダマスコ(アラム) ガザ(ペリシテ)
- ツロ(フェニキア)
- エドム アンモン モアブ
- ユダ ■ イスラエル

② イスラエルへの裁き (3～6章)

イスラエルの三つの罪

③ 5つの幻 (7～9章)

主の日。イスラエルの回復の希望。



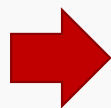
【預言者視点で見る預言書は、こんな感じ？ 実際は？】



【アモスの預言】…ざっくり分類。実際はシームレス!!



南北時代



① 直近の
苦難
1~6章

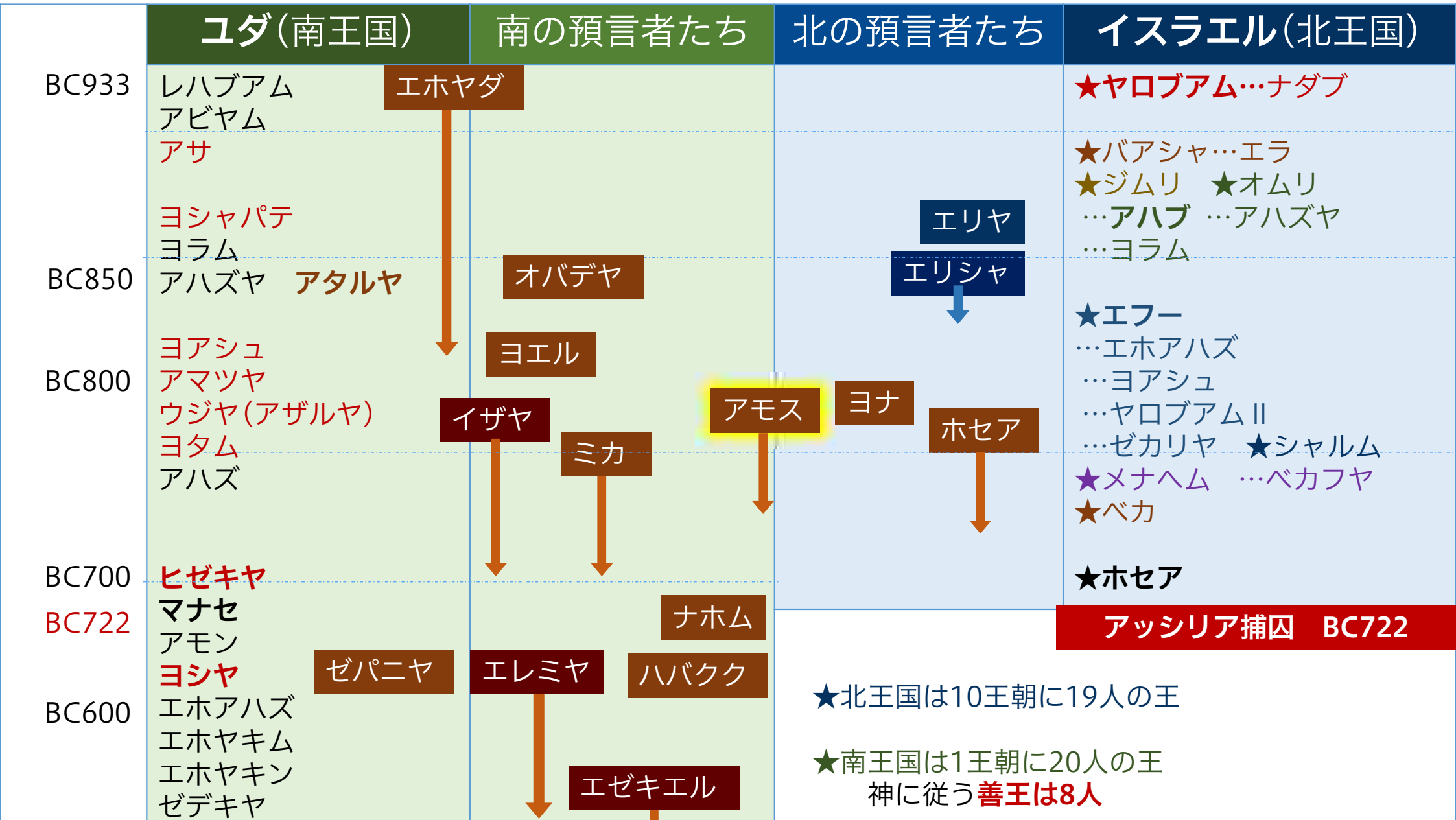
メシア初臨



② 主の日
大患難時代
7~9章



③ 回復
メシア再臨
9章
11~15節



★北王国は10王朝に19人の王

★南王国は1王朝に20人の王
神に従う善王は8人

北王国イスラエル

南王国ユダ

エリシャ

ホセア

【エフー王朝】

アモス

エフー

ベカ

20年

エホアハズ

アツシリア捕囚①

28年

ヨアシュ

ヤロブアムⅡ

ゼカリヤ

17年

16年

41年

6ヶ月

シャルル

1ヶ月

メナヘム

10年

南北時代の最盛期

ヨナ

混沌の時代

ヨアシュ♡

40年

アマツヤ♡

29年

ウジヤ♡

ヨエル

52年

ヨタム

イザヤ



Ⅰ. 諸国民の裁き

アモス書1章1～9節

【アモスによる預言】 アモス1:1

テコア出身の牧者*の一人であったアモス*のことば。

*“ノケツド” …ただの羊飼いだと強調。

*“重荷を負う”…旧約ではただ一人の名前。

■本職の預言者でもない南王国の小さな町の羊飼いが、主に召されて混沌の北王国に派遣され、滅びの警告をする。

➔福音派の一信徒が、自由主義神学の
本家本元に一人乗り込んでいく!?



まさに、“重荷”

テコア近郊の荒野

【アモスによる預言】 アモス1:1

これはユダの王ウジヤの時代、イスラエルの王、ヨアシュの子ヤロブアムの時代、あの地震*の二年前に、イスラエルについて彼が見た幻*である。

*ゼカリヤ14:5 「ユダのウジヤの時に…」

誰もが知る大きな地震があったと分かる。

*次元を越えた出来事を超自然的な方法で体験すること。



ユダ南部の町

【主の日の飢饉】 アモス1:2

彼は言った。【主】はシオンからほえ、エルサレムから声をあげられる*。羊飼いの牧場は乾き、カルメルの頂は枯れる*。

*先の時代のヨエル(ヨエル3:16)と同じ。
南王国から主の預言を携えて来たアモス。

*世の終わり、主の日の究極の飢饉は、
“御言葉を聴くことの飢饉(アモス8:11)”

→エリヤ、エリシャらが預言者の拠点を築いたのが、羊飼いの牧場・ヨルダンの荒野であり、カルメル山。

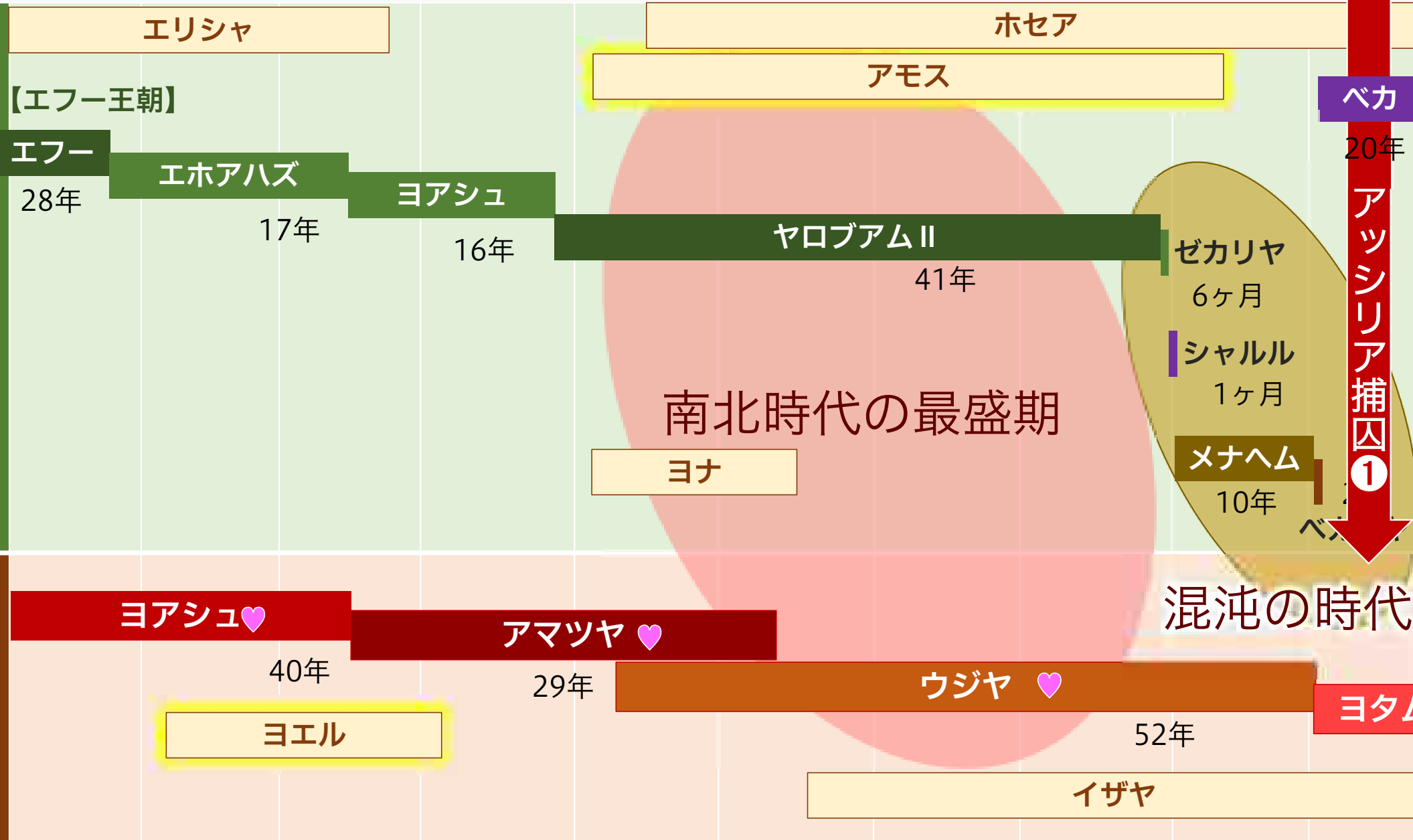
主の目には、ヨエルの後を継ぐ正当な預言者

カルメル山



北王国イスラエル

南王国ユダ



南北時代の最盛期

混沌の時代

ベカ 20年
アッシリア捕囚①

アラム(ダマスコ)の裁き

アモス1:3

【主】はこう言われる。「ダマスコの三つの背き、四つの背きのゆえに*、わたしは彼らを顧みない。彼らが鉄の打穀機*でギルアデ*を踏みにじったからだ。

*各国の裁きの冒頭で繰り返される言葉。

➔3杯でいっぱいのが、4杯目であふれ出す。

神の怒りの杯が、ついに注がれる。

*粉々に打ち砕かれた、侵略の厳しさが分かる。

*ヨルダン川東岸のイスラエルの嗣業の地。

➔アラムは、ギルアデを度々侵略、略奪した。



アラム(ダマスコ)の裁き

アモス1:4

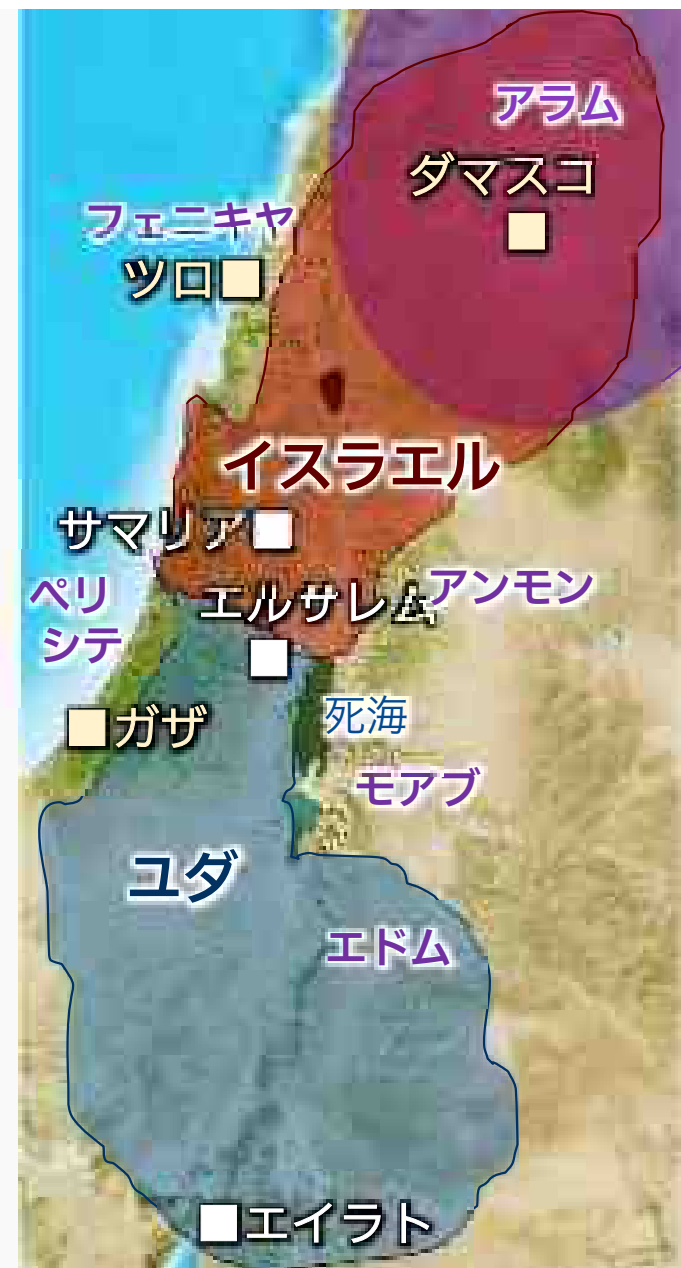
わたしはハザエル*の家に火を送る。その火は
ベン・ハダド*の宮殿を焼き尽くす。

*エリシャが油注ぎ、アハブ王朝の裁きの器に。

*度々イスラエルを苦しめたアラムの王

■この時代、アラムは、アッシリアの侵攻で
すでに弱体化していた。

この後、まっ先に滅ぼされることとなる。



アラム(ダマスコ)の裁き

アモス1:5

わたしはダマスコのかんぬきを打ち壊す。王座に着いている者をアベンの谷から、王笏を持っている者をベテ・エデンから断つ。こうしてアラムの民はキルへ捕らえ移される。——【主】は言われる。」

■ アラムの滅びは、Ⅱ列16:9で成就。

「アッシリアの王は彼(アハズ王)の願いを聞き入れた。アッシリアの王はダマスコに攻め上り、これを取り、その住民をキルへ捕らえ移した。彼はレツィン(アラム王)を殺した。」



ガザ(ペリシテ)の裁き

アモス1:6~7

【主】はこう言われる。「ガザの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがすべての者を捕囚の民として捕らえ移し、エドムに引き渡したからだ。

わたしはガザの城壁に火を送る。その火はその宮殿を焼き尽くす。

- サムソン、ダビデ…、歴代のユダの戦士が戦ってきた強力な海洋都市国家がペリシテ。
- ユダを侵略し、捕囚民をエドムに売った。
→その罪がついに裁かれる。



ガザ(ペリシテ)の裁き

アモス1:8

わたしは、王座に着いている者をアシュドデから、王笏を持つ者をアシュケロンから断つ。わたしはエクロンに手を向け、ペリシテ人の残った者は滅びる。——【神】である主は言われる。」

- ペリシテは5大都市の都市国家連合。
その一つガテは、ユダのウジヤ王によってこの時代に滅ぼされていた。(II 歴26:6)



ツロ(フェニキア)の裁き アモス1:9~10

【主】はこう言われる。「ツロの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがすべての者を捕囚の民としてエドムに引き渡し、兄弟の契り*を覚えていなかったからだ。わたしはツロの城壁に火を送る。その火はその宮殿を焼き尽くす。」

*ツロの王ヒラムはダビデと友情を保ち、ソロモンの神殿建設に貢献した。

→にも関わらずのツロの罪は重い。

神の民と近しい民族ほど裏切りの責任も重い





II. 兄弟民族の裁き

アモス書1章11節～2章3節

エドムの裁き

アモス1:11~12

【主】はこう言われる。「エドムの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが剣で自分の兄弟を追い*、あわれみを断ち、いつまでも怒り、どこまでも激しい怒りを保ち続けたからだ。

わたしはテマンに火を送る。その火はボツラの宮殿を焼き尽くす。」

■エドムの滅びは、先の預言者オバデヤがすでに詳細を伝えていた。兄弟民族でありながらイスラエルを執拗に苦しめた*ために。



アンモンの裁き

アモス1:13~15

【主】はこう言われる。「アンモン人の三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らがギルアデの妊婦たちを切り裂いて、自分の領土を広げたからだ。

わたしはラバの城壁に火を放つ。その火はその宮殿を焼き尽くす。戦いの日の、ときの声のうちに、つむじ風の日の突風とともに。

彼らの王は、その高官たちとともに**捕囚の身**となる*。——【主】は言われる。」

*ロトの子孫であるアンモンもまた、アッシリアの捕囚となり、滅ぼされる。



モアブの裁き

アモス2:1

【主】はこう言われる。「モアブの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼がエドムの王の骨を焼いて灰にした*からだ。

*死者に対する度を超した冒瀆。

➡イスラエルだけでなくエドムとも対立。

■イスラエル、エドム連合軍との戦いで、モアブ王は息子を供物に。(Ⅱ列3:27)

➡モアブもまたロトの子孫。兄弟民族。



モアブの裁き

アモス2:2~3

わたしはモアブに火を送る。その火はケリヨテの宮殿を焼き尽くす。モアブは、どよめきのうちに、ときの声と角笛の音のうちに死ぬ。

わたしはさばく者を町の真ただ中で滅ぼし、そのすべての高官たちを彼とともに切り殺す。——【主】は言われる。」

- ひとときわ厳しい裁きを受けるモアブ。
 - ➔王族、首長、高官たちは虐殺され、都も宮殿も破壊され尽くす。





Ⅲ. ユダとイスラエルの裁き

アモス書2章4～15節

ユダの裁き

アモス2:5

【主】はこう言われる。「ユダの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが【主】のおしえを捨てて、その掟を守らず、先祖がつき従ったまやかしものが彼らを惑わしたから*だ。わたしはユダに火を送る。その火はエルサレムの宮殿を焼き尽くす。」

① 周辺国 → ② 兄弟民族 → ③ 同胞ユダ

だんだん核心(イスラエル)に近づく預言。

*ユダの罪は、律法への不従順、偶像礼拝

■ 周辺国、兄弟民族の裁きまでは、喜んで聴いていた？ ベテルの人々の顔色が変わる



イスラエルの裁き 三つの罪①アモス2:6

【主】はこう言われる。「イスラエルの三つの背き、四つの背きのゆえに、わたしは彼らを顧みない。彼らが金と引き換えに正しい者を売り、履き物一足のために貧しい者を売ったからだ。

罪① …賄賂で裁きを曲げ、信仰者を虐げ、貧者を奴隷に売った。

■同胞を奴隷とし、他国人に売ることは、律法で堅く禁じられた行為。

→奴隷から解放された、ルーツの否定!!



イスラエルの裁き 三つの罪② アモス2:7

彼らは、弱い者の頭を地のちりに踏みつけ、
貧しい者の道を曲げている。子とその父が同
じ女のもとに通って*、わたしの聖なる名を
汚している。

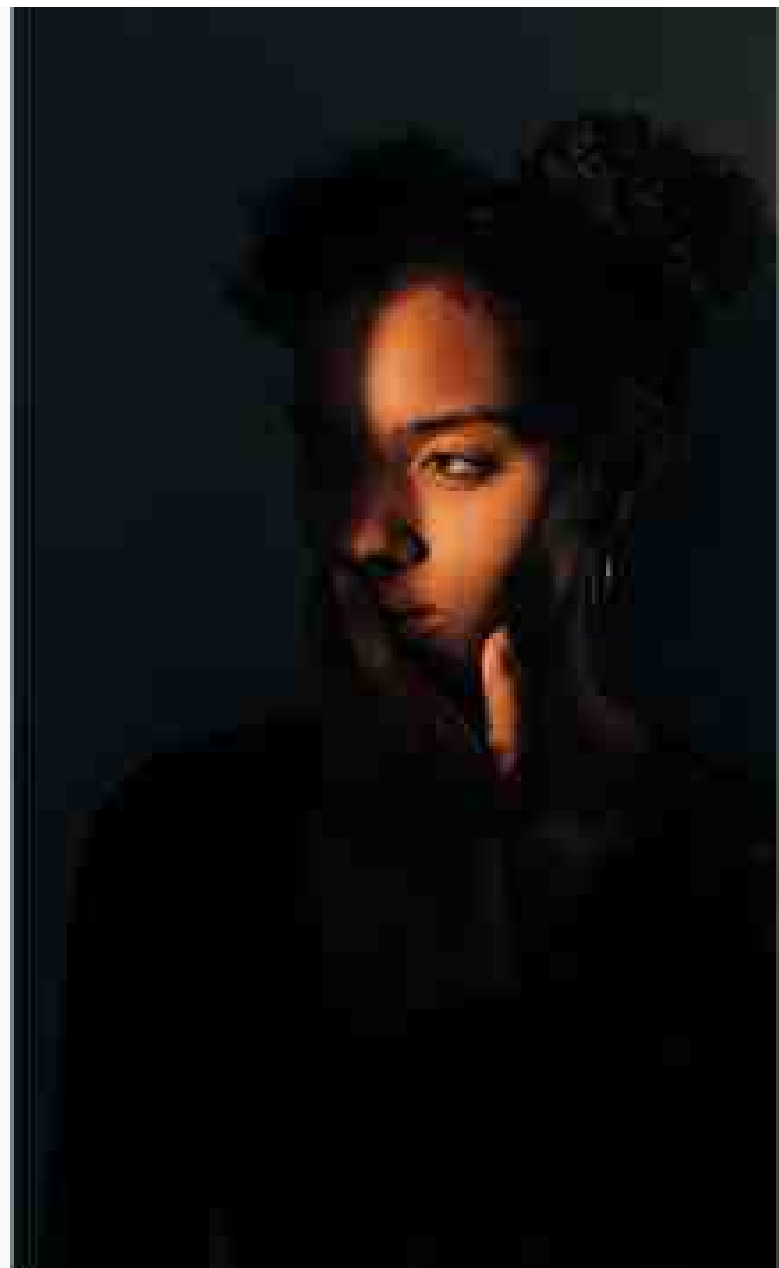
罪② …性的姦淫。靈的姦淫。二重の罪。

→両者は密接に関連。

*神殿娼婦に、父も子も通い詰める姿。

■金の子牛が祀られたベテル、都サマリア…。

各地で偶像が祀られ、神殿娼婦がいて、
偽の祭司たちが偶像に仕えていた。



イスラエルの裁き 三つの罪③ アモス2:8

彼らは、すべての祭壇のそばで、質に取った衣服の上に横たわり*、罰金で取り立てたぶどう酒を自分たちの神の宮で飲んでいる。

罪③ …不当な搾取の上の放縦な酒宴。

偶像の祭儀とも密接なつながりが。

*貧者の命に関わる上着は、夜には返さなければならない。(出22:20)



イスラエルの裁き アモス2:9~10

彼らの前からアモリ人を滅ぼし尽くしたのは、このわたしだ。彼らは杉の木のように背が高く、樅の木のように強かった。わたしは、その上の実も下の根も滅ぼし尽くした。

あなたがたをエジプトの地から連れ上り、四十年の間、荒野の中であなたがたを導き、アモリ人の地を所有させたのは、このわたしだ。

■ カナンの強大な民を恐れ主に反逆したイスラエルは、荒野の40年の後、約束の地へ。

➡ 敵を滅ぼし、導かれたのは主の御業。



イスラエルの裁き アモス2:11

わたしが、あなたがたの息子たちから預言者を、あなたがたの若者からナジル人*を起こしたのだ。そうではなかったか。イスラエルの子らよ。——【主】のことば——

しかし、あなたがたはナジル人*に酒を飲ませ、預言者には『預言するな』と命じた。

*神に誓願を立てた者。請願の期間中は、
ぶどう酒を飲まず、神を剃らなかった。

■ナジル人に酒を飲ませ、預言者の口を封じるのは、不信仰の極み。唯一の神の拒絶。



サムソンとデリラ

イスラエルの裁き アモス2:13~14

見よ。このわたしが、あなたがたを押しつぶす。束を満載した荷車が押しつぶすように*。
足の速い者も逃げ場を失い、強い者も力をふるえず、勇士も自分を救えない。

*収穫期、荷車による農業事故も多かった？

■恵みを満載した荷車に押しつぶされる。

→世の終わりの裁きの本質そのもの

■背く者は、王の王イエスに厳しく裁かれ、
従う者は、永遠の王国に招き入れられる。



イスラエルの裁き アモス2:15~16

射手も立ちおおせず、足の速い者も逃れられず、騎手も自分を救えない。

勇士のうちの、心の強い者も、**その日***には裸で逃げるようになる。——【主】のことば。」

***主の日。世の終わりの裁きの日**

→直近の裁きから、究極の裁きに
いつの間にか、スッと移行!!

■ 繁栄を極めたヤロブアム2世の北王国は、
強大な軍事力をも誇っていただろう。

→神の裁きの前には、まったく無意味。





IV. まとめと適用

自分自身を聖別しつつ、世を歩もう

逃げ場のない主の預言

- 周辺諸国の裁きから始まり、兄弟民族、同胞の南王国、そしてイスラエルへの裁きの預言へ。
- 最初は喜んで聞いていたベテルの人々の表情は、次第にこわばり、ついには、凍り付いてしまっただろう。
- イスラエルへの預言を他人事として読むなら、私たちも同様だ。主の日は、全世界に及ぶ神の裁き。誰も無縁ではられない。
- たった一つの逃れの道は、主イエスの福音を信じること、だけ。

混沌の時代に揺るがない判断基準を堅く持とう

■ アモスが告げた裁きの原則。

① 異邦人 …神の民イスラエルにどう接したか？

※大患難時代の異邦人は、ユダヤ人への対応で永遠の運命が決定。

② イスラエル …主を礼拝し、主の**律法**に従ったかどうか？

■ 教会時代の裁きの原則

① 異邦人もユダヤ人も、主イエスの福音を信じたかどうか。

② 福音を拒んだ者は、各々の罪を**キリストの律法**によって裁かれる。

→主イエスについての知識がある者ほど責任も重く問われる。

偽教師、偽キリスト、極めつけは、反キリスト

混沌の時代に、キリスト者の一致を保つために

- 混沌を増す世界を、非聖書的価値観がますます席卷している。
→ 神を拒絶し、欲望を正当化し、人間の罪を認めない。
- 聖書が明記していることには、従う → 明確な判断基準
例) 今回の選挙で、一つの基準にしたこと。
- 同じ聖書理解に基づく信仰の一致があれば、適用は個々のこと。
- 集う地域教会の基準も、聖書理解、信仰的立場を第一とすべき。
なんとなく嫌とか好きでは、自分の感情が第一になっているだけ。
→ 簡単に道を外れて、自分を信じる偶像礼拝に陥りかねない。

信仰を保つために、求められる自分自身の“聖別”

- 律法が求めたのは、イスラエルの世からの聖別。その基準が律法。
- 教会時代に求められるのは、世のただ中で、聖別されていること。そのために与えられているのが、内住される聖霊の助け。
- 主のために、時間、労力、お金、思い…を聖別しているだろうか。主を第一とし、優先順位を明確に持っているだろうか。どうしても聖別が困難なら、住居や仕事の変更が必要かもしれない。
- 大原則を覚えよう。
「マタイ 6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

預言者アモスの強みに学ぼう

- 神の都のある南王国から、不信仰極まりない北王国へ。
田舎(テコア)から、都市(ベテル)へ。
一介の羊飼ひ・農夫が、王や高官、祭司、預言者、神学者たちへ。
- アモスの最大の強みは、世にあっては、“何者でもないこと”
世に対して誇れるものは何もない。それゆえ主が用いられた。
- しかし、アモスは、ヨエルら預言者たちの預言を良く知っていた。
正規の預言者ではないが、律法と預言をよく学んでいたと分かる。
→ “学のない”ペテロたちは、洗礼者ヨハネの熱心な弟子だった。
例) 聖書フォーラムの強みは？ 鹿追教会の強みは？

★ ますます堅く、主の御言葉に立ち続けよう ★

■ 各々で判断すべき範囲と、絶対に譲ってはならない聖書の基準。両者を明確に区別し、主に徹底して従うことで真の一致を求めよう。

■ 聖別のために、思い切った決断が求められる場面もあるだろう。主の命令を確かに聴きとったなら、実行するのが間違いなく最善だ。

■ 信仰は、福音を信じる決断から始まった。成長の聖化の過程でも、さらなる決断を求められる。日々、決断を重ねているか、問われる。

必要は主が満たされる。信頼して踏み出そう。

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。

わたしは、まぎれもない罪人です。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

何者でもない私を、主よ、あなたが救い出してくださいました。

私は、聖霊が内住される、主の弟子です。

主が示される決断に、信頼をもって応えることができますように。

地の塩、世の光として、福音を携え、遣わしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」